

タイルの未来語り合う

タイル名称統一100周年を記念する祭典「タイル百年祭」が5日、セラミックパークMINO(多治見市東町)で始まった。気鋭のデザイナーや事業者がタイルの今後を語り合い、タイルを楽しく学べる記念の書籍も披露された。イベントは6日まで。(稲木悠司)

気鋭のデザイナーやタイル事業者らが未来のタイルについて意見を交わしたパネルディスカッション＝多治見市東町、セラミックパークMINO



多治見市で名称統一100周年祭



「化粧煉瓦」など複数あった呼称が「タイル」に統一された全国タイル業者大会から、今年で100周年。節目の年にタイルの魅力を伝えようと、美濃焼のブランド力向上を目指すセラミックバレー協議会がイベントを企画した。

メインイベントのパネルディスカッションに登壇したのは、グラフィックデザイナー佐藤卓さん、INAXライブミュージアム主任学芸員後藤泰男さん、同協議会チ

エアマン笠井政志さん、建築家水野太史さん、編集者加藤郁美さん、テキスタイルアーティスト白澤真生さんの6人。「未来のタイル」をテーマに意見を交わした。

佐藤さんは「若い世代はタイルに懐かしさよりも新しさを感じている。使い方次第で暮らしに取り入れられる余地がある」と指摘。後藤さんは「機能と装飾性をバランスよく伝えることが大切では」と述べた。

イベントの開会式では、記念の書籍「みんなのタイル図鑑」が披露された。市美濃焼タイル振興協議会と東濃信用金庫(同市本町)の共同事業で完成した96ページの図鑑で、タイルの歴史や種類を124枚の写真付きで読むことができる。同市笠原町のモザイクタイルミュージアムで12月以降に発売予定。

イベントでは他に、タイル張りや絵付けの体験コーナーや飲食ブースなどが出店する。6日の開場時間は午前10時から午後4時まで。

タイル業者と地元の金融機関が協力して完成させた「みんなのタイル図鑑」

「機能と装飾性バランスよく」